

ひまわりプロジェクト

梨郷小学校生徒さんの 作文をご紹介します

◇梨郷小学校生徒さんの作文が
最優秀賞を受賞

ひまわりプロジェクトの協力団体である、山形県の南陽市立梨郷（りんご）小学校より、嬉しいニュースが寄せられた。社会を明るくする運動作文コンテストの表彰式が一月十四日に南陽市役所で行われ、梨郷小五年の朝倉愛子さんが最優秀賞を受賞し、白岩市長から表彰状が贈られたそうだ。梨郷小学校では、公立の小学校としては珍しい取り組みをしており、「子どもらうぎょうせいさんほうじんのひのびファーム」と銘打った学習チームを立ち上げており、この活動についての作文となつている。朝倉さんの文章を以下にご紹介したい。(Y・K)

《小学校の部》

最優秀

「のびのびファーム」の活動から

南陽市立梨郷小学校
五年 朝倉 愛子

私たちの学校では、「のびのびファーム」という活動をやっていきます。そこでは地域の方々と協力しながら野菜を育て、収穫したものを朝市などで売っています。私達のがんばっている姿をみて、地域のみなさんが笑顔になつてくれればいいなあと、私は参加しています。

昨年、のびのびファームでは、東日本震災で津波の被害にあった寒風沢島を訪問しました。私たちが育てた白菜と大根、そして笑顔をとどけに：

しかし、津波の被害は、想像以上のものでした。海の近くの家は、ほとんどこわされてしまいました。また残った土地や建物には、高い津波のあとがくっきりとついていました。一目で、津波のおそろしさが分かります。たいへんな場所に来たんだなあと思いました。

寒風沢島では、いくつかの班に分かれて、白菜と大根をとどけました。もちろ

ん、笑顔と手紙もいっしょに。一つ一つの家を回ると、島のみなさんは、とても喜んでくださって、私もとてもうれしくなりました。

昼食の時間には、島のみなさんからとてもおいしいご飯をごちそうになりました。私たちは、島のみなさんに元気になつてもらおうと歌やおどり、劇を発表しました。「よさこいソーラン」はこの日のために何度もおどりを練習してきました。

最後に、島のみなさんから力二をいただきました。私たちが白菜と大根と笑顔をとどけにきたはずなのに、それ以上のものを返していただいたように感じました。ボランティア活動は初めてでしたが、やってみて、相手の人が喜んでくれると自分もうれしくなるということがよく分かりました。

その後、野々島という近くの島にむかいました。たいへん人数の少ない学校でしたが、私たちのためにお米やしおりをくださいました。とてもうれしくて、今も大切にしています。

また、のびのびファームでは、朝市でいただいたお

金を海外へ寄付する取り組みもしています。世界にはこまつている人がたくさんいるという話をよく聞きました。このお金でそのような人達が一人でもへつてくれればうれしいです。ファーム活動は、たいへんなことが多いのですが、このような喜びがあるので、私はこの活動を続けてがんばっています。

今年度に入ると、宮城の「おらほのいちご」の生産組合の方々や福島「シャローム」の方々に学校にきていただき、話をお聞きしました。津波で何もなくなった土地に、ビニールハウスを再び建ててがんばって

いる話や、ひまわりの種を通して人々をつなぐ取り組みをしている話をお聞きして、すこいなあと思いました。そして、ますます勇気や元気をもらえたような気がしました。

私は、のびのびファームの活動を通して、みんなが笑顔になればいいなと思っています。かなしんでいる人やこまつている人がいたら、助けたり助け合ったりする社会になればいいなあと、私は思います。そのため、私はのびのびファームの活動をこれからも続けて、まわりの人が笑顔で元気になるようにがんばっていきたいと思います。



▲シャロームで梨郷小学校さんを訪問した時の様子。ひとりひとりが熱心に耳を傾けてくれました。

日韓国交正常化50周年 —友達だからできること—

＜講師＞ 鄭玄実さん（NPO法人ふくかんねっと 理事長）

＜日時＞ 2016年2月27日（土） 13：30～15：00

＜会場＞ まちなか夢工房 2階 ＜参加費＞ 500円

＜講演内容＞

風評被害により、韓国から福島へ人が来なくなってしまった等の問題に直面した鄭（ちゃん）さん。福島で生き、その良さを知る鄭さんは、風評被害を無くして福島への人の往来を活発にすることを目指しています。活動の一環として、日韓青少年の相互交流に力を入れるなど、これまで数々の市民レベルでの交流を行ってこられました。国という単位で見れば問題はまだまだ残っているかもしれませんが、「友達」だからこそできることがあるのでは、と草の根的な活動を続けていらっっしゃいます。今回はそれらの活動について、語っていただきます。

*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出欠のご連絡をいただければ幸いです。
(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)

教養講座
地元学と考える
第百四十六回予告